

$$\text{類似度指数(\%)} = \frac{\text{両測線間に共通の魚種数} \times 200}{\text{1方の測線の魚種数} + \text{他方の測線の魚種数}}$$

の簡便法によった。

それによると測線ヌを除く各隣り合う測線間の魚類の類似度指数は高い。

また測線イは口の次に最も離れたヲとの類似度指数が高い。これは先述の様に湾口に近いたためであろう。

測線ヌを除く、ト〜ヲの間ではやはり類似度指数が高い。湾口に近いヲが入るのは不思議であるが、湾口に近いが藻場があるので、類似度が高いのかも知れない。

また同じ場所で測線の長さや時期が違っただけで、ハとハ-2、ニとニ-2は類似度が低く、魚はあらゆる条件によってかなり流動的である事がわかった。

保護水面内ではアミアイゴを除いて増殖対象種は少なかったが、量的にはアミアイゴは藻場での一番の優占種で、藻場と一番密接な種類といえるであろう。

3. 魚礁設置効果

保護水面事業の一環として、ヒューム管魚礁・フィルム魚礁・ポリコン魚礁を設置した

3-1. 魚礁の形と大きさ

各魚礁の形と大きさを図2に示した。

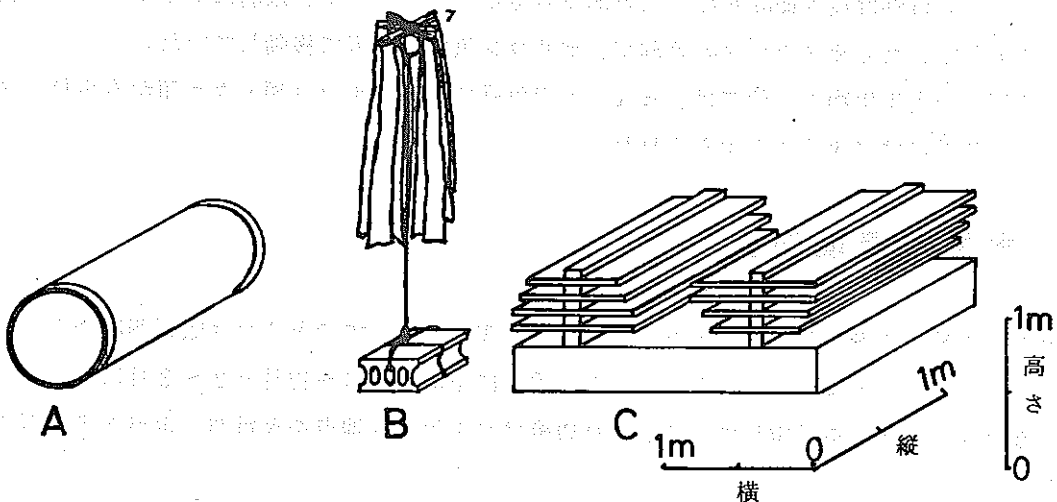


図2. 保護水面の人工魚礁の種類と大きさ

A: ヒューム管魚礁、B: フィルム魚礁、C: ポリコン魚礁

1)、ヒューム管魚礁: 昭和51年3月施工、数量66個、設置場所は図1中のAの場所で、